

令和4年度第1回小金井市児童館運営審議会 会議録

日時 令和4年11月16日(木) 午前9時30分～午前11時20分
場所 小金井市役所第二庁舎8階801会議室
出席委員 7人
会長 倉持 伸江 委員
委員 小柳 政憲 委員 山中 栄治 委員
 大久保 美千子 委員 木本 茜 委員
 小林 浩 委員 三浦 大輝 委員
欠席委員 3人
委員 高橋 秀樹 委員 山田 礼子 委員
 鈴木 順子 委員

事務局 子ども家庭部長 大澤 秀典
 児童青少年課長 深草 智子
 児童青少年係長 鈴木 拓也
 児童青少年係主任 林 礼子
 貫井南児童館 森 直人
 本町児童館 鈴木 慎一
 緑児童館 山田 仁美
 東児童館 森田 加代子

傍聴者 1人

1 開会

深草課長

お忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございます。私、事務局の児童青少年課長、深草と申します。4月から児童青少年課長に着任してまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、事務局から何点が御案内をさせていただきます。

本日の審議会について、高橋委員、山田委員、鈴木委員から事前に欠席の連絡をいただいております。

次に、本日の配付資料についてですが、次第のほか、次第の下部に配付資料の一覧を掲載しておりますので、御確認いただき、不足がありましたら、事務局にお申し出ください。

次に、事務局職員の変更についてです。今年4月の人事異動に伴い、事務局職員が変更となっておりますので、紹介させていただきます。

この4月から児童青少年係長となりました鈴木です。

鈴木係長

鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

深草課長

また、児童館職員の配置に変更がありまして、緑児童館の森主査が貫井南児童館へ、貫井南児童館の山田主任が緑児童館に配置替えとなっておりますので、報告をさせていただきます。

最後に、本日の審議会進行につきまして、会議録作成のため録音をさせていただいておりますので、発言の際にはお名前をおっしゃっていただいておりますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入りたいと思いますので、ここからは会長に進行をお願いいたします。

2 議題

倉持会長

それでは、皆さん、おはようございます。ただいまから令和4年度第1回小金井市児童館運営審議会を始めたいと思います。

前回の会議から大分間が開いているので、非常にお久しぶりというところと、今日は御欠席が多かったり、あとオンラインで御参加であったりということで、イレギュラーな部分もありますけれども、御報告、審議の中身については、いろいろな御意見を伺えればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題については児童館事業についてということで、予定されている議題は1つになります。

初めに、事務局から本日の流れについて御説明をお願いいたします。

鈴木係長

本日の進め方に入る前に、児童館の在り方検討につきまして、委員の皆様事務局から御報告をさせていただければと思います。

昨年度の児童館運営審議会において、今後の児童館の在り方についての検討を、この審議会で行う予定となっております。在り方について、どのように進めていくべきか、この間、事務局において検討を行ってまいりましたが、今般、市長が交代することになったことにより、施策の方向性が不透明であることや、小金井市の子育て施策に関する最上位計画である子ども・子育て支援事業計画、通称「のびゆ

くこどもプラン小金井」という計画がございまして、そちらの改定作業が来年度から始まることに伴い、その新たな計画に沿った検討を行う必要があるだろうということから、本年度予定しておりました今後の児童館の在り方検討につきましては、本格的な検討を次期の任期において行っていくこととしたいと考えておりますので、御理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の流れについて、御説明させていただきます。

初めに、10月に完成いたしました児童館事業の報告書である「一年のあゆみ」の冊子を基に、令和3年度の事業報告及び令和4年度の実施状況について、事務局から概要について御報告をさせていただき、その後、委員の皆様からの質疑をお受けしたいと思っております。

その後、小金井市の子ども施策の最上位計画である、「のびゆくこどもプラン小金井」の事業進捗状況評価について、事務局から説明、御報告をさせていただき、委員の皆様から質疑をお受けするという流れで進めさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からの説明は以上になります。

倉持会長

ありがとうございました。

今の御説明、進め方について、何か御質問等ありますでしょうか。

小林委員、どうぞ。

小林委員

在り方検討なのですが、のびゆくこどもプランを新たに改定するに当たって、在り方検討の議論があったほうが、プランの組替えとか検討には有効ではないかと素人考えには思うのですが、その辺はどういうロジックで、のびゆくこどもプランを先に行うという結論に至ったのか、御説明いただいてもよろしいでしょうか。

倉持会長

小林委員、ありがとうございました。

では、事務局より少し考え方といったところで御説明いただければと思っております。

鈴木係長

説明が足りず申し訳ありませんでしたが、のびゆくこどもプランの改定作業と並行して、児童館の在り方検討を事務局としては進めていきたいと考えております。

のびゆくこどもプランの改定作業に当たり、来年度、無作為抽出により、市民の方に子育て施策に関するアンケートを取る作業が始まります。そういった地域の方のニーズも、そこで一定、明らかになると思っておりますので、そういった結果も踏まえて、児童館事業の在り方については検討していきたいと考えております。

倉持会長

ありがとうございました。並行して併せて検討していくということですね。

小林委員、よろしいでしょうか。

小林委員

はい。ありがとうございます。これから教育課程も変わってきて、主体性とか意欲が重視されてくるところがあって、これは、子どものことは福祉であることも、建前ではあるのだろうと思うのですが、子どものことですので、社会が変わってきていることを考えると、市民の方の意見聴取だけを頼りに検討するよりは、もう少し教育情勢とか社会の変化も加味していかなければいけないのかなと思っておりますので、その辺も併せて御検討いただければ幸いです。

倉持会長

ありがとうございました。

そのほか、よろしいでしょうか。

それでは、議題に入っていきたいと思います。

では、児童館事業についての前半部分で、この報告書を基に、令和3年度事業報告及び令和4年度の事業の実施状況について、御説明をお願いいたします。

森主査

流れとしましては、「この一年のあゆみ（令和3年度）」を事前資料としてお配りさせていただいていると思います。皆様には読んでいただいていることを前提としてお話をさせていただきます。令和3年度の事業の中身よりも、コロナ禍の中で、どのような感染対策を行い、どのような事業レベルで、どのような行事を行ってきたかを、まず全体的にお話をした後で、各児童館について、簡単に報告させていただき、その後で細かいところについては質疑をしていただければと思います。

さらに令和4年度についても、もう半年がたち、様々な行事も行ってきていますので、昨年度との違いは、もう見えてきているとは思いますが、そこについても触れていただきたいと思います。

さらに現在、令和5年度について、いろいろと検討している最中ですが、その辺についても、もし触れる機会があれば触れさせていただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、令和3年度の全体的な報告になります。

御承知のとおり、児童館はコロナ禍が始まった当初の令和2年の4月から6月は、市内の小・中学校が休校になったこともあり、閉館措置を取りました。それ以降、感染対策を行いながら、やれることをやるという形で進めてきましたが、基本的には感染拡大防止の責務をもちつつ、地域の子どもたちや、乳幼児と保護者の方の遊び場及び居場所を確保するという視点で、これまで運営を行ってきました。

今さらであります。感染拡大防止については、学校や地域の活動も皆同じだと思いますけれども、施設内の消毒、検温、手指消毒、そしてマスクの着用のお願い。それと人の動きが密にならないように配慮するところを徹底してきました。これについての基本的な考え方は、この3年間、全く変わっていないところです。

その中で、全国的にも感染者数が増減の繰り返しであったので、社会的な状況や国や都の行動制限等を注視しながら、様々な活動を続けてきたのですが、個々の事業については、この一年のあゆみに記載がありますので、ここでは省略をさせていただければと思います。

全体的には、児童館の中で、飲食や調理を伴う事業は全て行えず、多くの人数が集まるイベント等についても、基本的には令和2年度から令和3年度にかけては行えませんでした。それでも児童館では、毎日、子どもたちの元気な声は響いていたので、そんな子どもたちのためにできる限りのことを行っていこうという考えの下で、令和2年度よりも少し前進させることができたと思います。

令和2年度にオンラインを活用した謎解きゲームを行ったのですが、それを少し進化させて、昨年度の夏休みはオンラインで発信したいろいろな謎解きを解きながら、子どもたちに各児童館を回ってもらう事業を行いました。一年のあゆみの34ページに記載がありますが、夏休みであったため、気温も高く、猛暑の中で知らない地域を結構歩くのは大変だったのかなということもあり、参加人数は期待したほどではありませんでした。

その後で、その謎解きゲームを解いた子どもたちの上位何人かを集めて、9月に市の総合体育館で最終決戦を実施しました。人数的には多くありませんでしたが、実際に子どもたちが一堂に会して、そこでゲームを行うといった事業でしたが、子どもたちの生き生きとしている姿を見て、少し大げさではありますが、我々としても、しばらく忘れかけていたものを思い出した感じになりまして、やはり児童館は遊び場の開放だけではなく、こういうことも必要だなということを非常に強く感じたのが前年度のちょうど真ん中あたりでした。

当時、オリンピックが終わって、9月に緊急事態宣言も解除となり、いろいろできるかなという時期でしたので、本来であれば8月末に実施予定だった肝試しを10月に武蔵野公園のくじら山で実施しました。こちらにはたくさんの申込みがありまして、90人の予定であったところ、200人を超える申込みがあり、やはりこういう機会を保護者も含めて欲しているなということを非常に感じました。

基本的に、館内は密になりやすいですが、野外であれば、もう少し人数も集められるし、余裕を持って行動できるということで、毎月、移動児童館を実施していますが、この活動については、ずっと継続して行うことができます。

ただ、やはり調理ができないとか、飲食もいろいろ気を使うことがあるので、昨年度に関しては、児童館でこれまでイベントとしては核をなしていたような夏休みの夏期クラブ、合同事業のわんぱく団や児童館フェスティバルといったイベントについては中止になりましたが、それでも少しずつ、令和2年度よりは少し先へ進んだかなという感じではありました。

各児童館の状況については、本町児童館から順に簡単に説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

鈴木主任

本町児童館の令和3年度の活動報告及び令和4年度の活動状況を簡単に説明させていただきます。

資料は、一年のあゆみ、10ページ、11ページを御覧ください。

本町児童館の令和3年度の活動状況は、公共交通機関を使用した遠足や館内での宿泊を伴うものなどを予定していた行事を除き、引き続き工作や集団遊びを中心に行いました。

乳幼児の利用に関しては、遊戯室に限らず、工作室や図書室も開放し、広々としたスペースで、遊びの内容や年代で部屋を分けて利用してもらいました。

コロナ禍では昼食を取ることが難しいため、午前中から継続して利用することがしづらい状況で、午後の乳幼児の利用は減少傾向でした。また、一部の工作行事を3歳児から就学前までの子どもが参加できるように工夫しています。

小学生に関しまして、令和2年度は水曜日に限って、学年ごとに利用時間を区切りしましたが、令和3年度は全学年、全時間帯が利用できました。小学生の自由来館者数が、ほかの児童館と比較して多くなる時期もありましたが、校庭開放等が定期的に開催されるようになったことで、児童館の来館者数も落ち着いてきました。子どもたち自身が、放課後どのように過ごすのか、地域の遊び場の選択肢が増えることの重要性を感じています。

中学生は、部活動が休みの平日や土曜日、さらに中間試験、期末試験前後によく

来館しました。館内の行事のボランティアを手伝ってもらうとき、中学生に関しては、人数は多く集まらなくとも、声をかければ必ず誰かが引き受けて参加してくれました。

ダンス教室やイラスト教室には定期的に大学生がボランティアとして参加してくれました。

地域の大人のボランティアグループの中には、自主的に参加を控えたグループもありました。コロナ禍以降、一度も実施していないクッキングや音楽サークルの公演、人形劇等はいずれ実施できるようになると思いますが、一旦連絡が途絶えてしまったボランティア団体と、これまでのような関係性をどのようにつくっていくかが課題と考えております。

本町児童館の令和3年度の報告は以上となります。

東児童館森田

東児童館の令和3年度の報告を申し上げます。一年のあゆみ、14ページ、15ページを御参照ください。

まず、特筆することとしましては、子育てひろばにおける0歳児の利用と、行事への参加が増えたことがあります。

0歳児の参加に関しましては、従来ですと、首が座り始めた生後3か月以降からが多かったのですが、昨年度に関しましては、8か月になってからとか、9か月になってから、また1歳近くなってからの方も多くいらっしゃいました。

次に、小学生についてですが、自由来館は低学年の利用が増えました。また、行事の参加は伸びた感じがあります。前年度はコロナで学校が休校になったこともあり、低学年の利用がとても少なかったのですが、令和3年度に関しては増えたのが大きな進歩でした。

グループ活動に関しましては、例年どおり申込みが多く、定員をオーバーし、抽選となるような状況でした。

年度途中ではありましたが、高学年の意見を採用し、11月から毎週土曜日、午後3時から5時まで、子どもたちのリクエスト曲を館内放送で流す時間を設けました。低学年も喜んでリクエストし、土曜日の利用の雰囲気が変わりました。

中学生に関しましては、利用が伸び悩んだ部分があるのですが、講座の講師を新規開拓するなどして工夫をしました。

また、受験が終わった高校3年生が、将来、子ども関係の職場に就きたいといったこともあり、小学生の遊びボランティアとして3月まで活動してもらうなど、ボランティアの育成にも、ピンポイントではありましたが、力を入れました。

そのほかですが、専門相談を東児童館では行っています。思春期相談、子育て相談が毎月1回あるのですが、子育て相談の予約がない時間帯は臨床心理士の先生にひろばに入っていていただいて、保護者の方とざっくばらんに会話をさせていただくなどの利用もできました。ただ、まだ専門相談があることを知らない利用者の方もいらっしゃるようでしたので、今後、広報をどのようにしていくかが大きな課題となっています。

また、関係機関との連携ですが、コロナ禍の子どもたちの様子を心配して、地区の主任児童委員が様子を見に来館してくださるなど、子ども家庭支援センターの職

員の方とも連携しながらの1年でした。

山田主任

貫井南児童館の説明をさせていただきます。一年のあゆみ、18、19ページを御覧ください。

乳幼児の活動は、子育てひろば事業を週3回行っているのと、幼児グループの活動を週2回行っていました。常設ひろばではないので、毎日、お子さんが来るわけではありませんが、0歳児の利用が前年度は少なかったのですが、昨年度は0歳児の利用がとても増えました。週に何度も遊びに来る親子も増えました。

一方、1歳児の利用は、その前の年から少なく、年齢別の交流会など企画してみたのですが、なかなか増えることはありませんでした。

幼児グループについては、2歳児で人数は少なかったものの、よく児童館のひろばを利用している親子が多かったので、活動日以外にも、友達同士公園で交流するなど、活発な活動も見られました。

小学生については、年間を通して、子どもの意見を尊重して、行事やグループに生かしていこうと取り組んできました。小学生は、主に小学校4年生が多かったのですが、児童館に目的を持って遊びに来る子どもが多く、卓球やカードゲーム、漫画を読むなどをしている子もいるのですが、高校生のボランティアの子たちがたくさん来てくれていたので、そういった子たちと遊びたいということで来る子どもがいました。大勢集まった日には、庭で小学生や高校生まで、職員を含めて、集団遊びなどを行うこともありました。ただ、やはりコロナ禍ということもあって、気にするお子さんもいるので、来館者が多いときには近くの公園に避難していく姿を見ることがありました。

次に中・高校生の活動です。

貫井南児童館は、中・高校生の活動として、週に1回、金曜日、夜間開館を行っています。中・高校生世代の夜間開館は、令和2年度はできない時期もあったり、時間を短縮して行ったりと、なかなか取り組むことが難しかったのですが、令和3年度は午後8時まで通年開催していました。

「スペース@ヌクイ」という名称で中・高校生世代向けの夜間開放を行っていますが、高校2年生の子が少数で参加していて、人数が伸び悩んでいたため、去年の課題としては、夜間開館の利用を増やしていこうと考えていました。

コロナ禍となり、中学校の部活動や学校の様子が少し変化していて、中学校1年生と2年生の利用が、日常の時間とても多かったので、その子たちと職員が付き合うようにして、一人一人にとって心地のいい場所になるように努めていました。ただ、コロナ禍ということもあり、なかなか定着することは難しかったのですが、移動児童館等の行事に参加して、ボランティアを行う中学生も出てくれました。

あとは、地域との連携についてですが、地区行事などがなかなかできなかったため、地域の方たちとつながりを持つことが難しかったのですが、「ミニゴーストハンティング」という地域とつながりを持ってオリエンテーリングをしていく事業を行ったり、行事のボランティアとして参加したりしていることはありました。なかなか人が集まらなかったり、コロナ禍で中止になってしまったりした行事もありましたが、できる範囲での活動を行ってきました。

森主査

昨年度に関しての緑児童館について、簡単にポイントをお伝えさせていただきます。気になることがありましたら、御質問をしていただければと思います。

まず乳幼児全体で見れば、以前よりも利用者が減りました。これは0歳や1歳の子育てひろば事業の対象よりも、幼稚園に入る少し前の幼児グループの世代が大きく減ったことがあると思います。

それから、小学生に関しては、地域で放課後子ども教室事業が、緊急事態宣言中はできなかったこともありましたが、秋以降、活動を再開し、子どもたちの遊び場や遊びの選択肢は増えたと思いますが、児童館だけを見ると、その影響はそれほど受けていない印象です。

基本的には低学年から高学年まで、児童館に来る子どもはなんとなく決まっていて、ここに遊び場が増えたから、今度、こっちに行ってみようというよりも、児童館が好きの子はずっと児童館に来ていました。また、小学校の放課後子ども教室が近くにあるので、向こうに行った子がこっちに来ることもあるので、その辺もあまり影響しなかった要因と感じています。

あと、中・高校生に関しては、コロナ禍に入ってから、あまり遊びに来なくなった実感があり、実際統計的にも減っています。

利用者が減っていることでの大きな特徴としては、幼児グループ世代やその後の保護者の方たちが忙しい中で、児童館に来る機会や活動する機会が減ってきており、今まで行事などは、そういった保護者の方たちの活動が小学生のいろいろな事業に直結していた部分も多かったのですが、そこがなかなか難しくなって、職員が行っていることのほうが多くなってきていると感じます。

一年のあゆみの58ページに、利用状況の前年度との比較があります。幼児が減っていることに関して、当然、大人も減るのですが、基本的に大人の児童館来館が、幼児グループと子育てひろば事業の引率する保護者のみで、独自に活動する保護者の方はほとんどいなくなっているのは感じます。

それと、どの児童館もそうですが、令和2年度は2か月間休館しているのもあって、令和3年度のほうが多くなっています。大体、平均して、どの館も1,300人ぐらい、多いと1,500人ぐらい来館者がいると思います。そのため、そこを差し引いて考えていただくと、先ほどから令和3年度は前へ進んだと言っていますが、それほど来館者数の増減はないのかなと思っております。

例えば、緑児童館の高校生は前年に比べて倍以上増えているなどと思われると思いますが、この高校2年のところの131人という数値は、ほぼ全部同じ子です。1人の子が毎日来ていたので、数字的に分かりづらいところもあるので、この辺も何か気になることがあれば、聞いていただければと思います。

倉持会長

ありがとうございました。

今、令和3年度、昨年度の全体と、それから各館のことで御報告いただきましたが、一緒に令和4年度の概況を教えていただければと思います。

森主査

令和4年度についても、基本的には昨年度と大きな変化はありませんが、感染対策については万全を期して続けております。

事業そのものについては、幸い国や都からの大きな行動制限も出なかったのも、

一昨年、令和2年度と比べると2歩か3歩、昨年度と比較するとまた1歩進めている感じではあります。

一つ一つの事業を説明していると長くなりますので、一年のあゆみを読んでいただいている前提でお話をさせていただきたいと思いますが、特徴的なことでいうと野外で行う行事は再開し始めています。

具体的に言いますと、昨年度の後半に、サイクリングでの遠足を行いました。4月以降、公共交通機関を使用した遠足を普通に行うようになりました。特に秋以降は、私のいる貫井南児童館でも高尾山に登りに行くことであるとか、高校生限定ですが、東児童館では秋川にお弁当を持って行って、川遊びをしてきました。

あと児童館で宿泊するのは、かなり密になるのでまだ難しいと判断したため、7月の夏期クラブについては、まだ調理や宿泊は行わず、グループ単位でボランティアと一緒に工作を行うことに特化した内容としました。本当はそこでみんなで御飯を食べたりとか、夕飯を作ったりとか、泊まったりすることになるのですが、大きな工作を行って、ボランティアと交流してもらう点で少し夏期クラブらしさが出せたと思います。こういった事業については、どの館も実施することができました。

それから、8月の後半に毎年実施してきた「わんぱく団」は、武蔵野公園のくじら山で、小屋を建てるなどのキャンプ的なことを行っていた事業ですが、ボランティアの要望もあり、少しでもできることをやろうということ念頭に検討した結果、小屋を竹で作る簡素なテントとし、活動日数を6日間から4日間と短くしました。1人用のテントにすることで、宿泊を行うことができ、子どもたちやボランティアたちをはじめ、我々職員にとっても楽しい夏だったと感じています。

移動児童館については、現在も毎月行っていますが、場所を占用させてもらっている武蔵野公園が飲食を含めた野外の活動に対して非常に理解をしてくれているので、今後、感染対策に気をつけながら、焼き芋等の野外調理を検討しているところです。

食というのは、児童館事業の中で大きなキーワードといますか、根幹になっていると改めて最近思います。東児童館と貫井南児童館で週1回行っている中・高校生以上のための夜間開館が、ゼロではないですが、毎回非常に来館者が少なくなっている状況の中で、子どもたちに、最近、何で来ないのかという話を聞いたら、食べたり、みんなでわいわいしたりしながら調理することができないことがつまらないという意見が多くありました。そのため、6月の末から、時間と場所と人数を限定して、軽食はとっていいことにしているのですが、それでも意外に食べないといえますか、黙食が基本なので、どうしても、なかなか盛り上がらないなということがあり、食べるだけではなく、以前のようにみんなで楽しく作って食べることに楽しさを感じているようです。

小学生に関しても、子どもたちに何をやりたいか聞くと、大抵おやつ作りと言うので、そろそろ何とかならないものかと考えている状況です。

あと、一般的に注目を浴びているマスクの着用についてですが、学校の授業でも、恐らく着用は当然だと思いますが、夏の暑い時期のマスク着用に関しては、熱中症の問題もありましたし、子どもに限らず社会的にもマスク着用についての是非は、

いろいろ議論はされていますが、児童館としてはマスクに関しては義務というよりも、取りあえず持ってきてねということの基本にして、状況に応じてつけたり外したりさせているところです。

ただ、結構驚いたのは、外していいよと言っても、外さないんですね、子どもたちが。小学生が特にそうですけど、外さない子どもたちのことのほうが、逆に最近気になってしまっています。

いずれにせよ、地域では放課後子ども教室などは普通に今行っておりますし、様々な子どもたちの活動や行き場は安定してきたとは思いますが、先ほど申し上げましたが、イベント等の申込みの数は、コロナ前に比べて増えてきて、ちょっとした工作でも、すぐにいっぱいになってしまうので、やむを得ず抽選にすることは最近多くなってきています。

また、今週の日曜日に市の総合体育館で、お化け屋敷を実施しました。従来からの「じどうかんフェスティバル」と同様に、子どもの権利に関する条例にもある、子どもたちの主体的な参加や意見表明を趣旨とし、何か月も前から各児童館でスタッフになった、およそ100人を超える小学生からボランティアまでの子どもスタッフと共に大体育室に巨大なお化け屋敷のセットを作り、応募してきた子どもたち170人を順番に暗い迷路の中で驚かせました。こういった大規模な行事も3年ぶりですが、これも少し前へ進めたことの一つです。

いろいろできたことで自信がついたような感覚にもなっていますが、それはしっかりと受け止め、すべてできるようになったわけではないので、コロナ禍が続く中で今後も社会的な感染状況や、学校生活などもすり合わせ、検証しながら進めていく段階にまだあると思います。実際に今、感染がまた広がっているのも、また難しくなっている部分もありますが、子どもたちと一緒に、常に面白いことは行っていきたいと考えています。

各館の状況については、また本町児童館から順に説明させていただきます。

鈴木主任

本町児童館の令和4年度の状況についてです。今、森主査から話があったとおり、感染対策をまめにしながらイベントを行っているところです。

本町児童館の夏期クラブについては、館内での宿泊を除きまして、コロナ以前の形まで、一定、戻せたと思っております。

申込み参加者は、60名だったところを30名としましたが、市内徒歩での遠足など、4日間の予定で実施したこと。最終日は夜間の事業だったので中止にしたこともあり、3日間通ってもらって、行事を行いました。

それから、9月にサイクリングで稲城市の梨園に梨狩りに出かけました。このあたりの事業についても令和3年度には実施できなかったものを、令和4年度になって再開してきた事業になります。

本町児童館からは以上です。

東児童館森田

東児童館の令和4年度の状況についてです。まずは乳幼児と保護者についてですが、常設の子育てひろばの利用に関しましては、通常の状態に戻りつつあります。感染症対策はしていますが、利用者は非常に多く、週に4日とか、あと午前、午後、また、初めて来場する方のお子さんが、生後2か月、3か月と、通常感じに戻り

つつあります。

小学生については夏期クラブを行いました。こちらに関しては、宿泊と調理を除く内容で行いました。参加者が32名、リーダーも15名で、改めて地域の方から、児童館の夏期クラブの事業に対する期待の大きさといいますか、待ち望んでいた雰囲気伝わってきました。

中・高校生に関しましては、とびだせ！中高生という企画がありまして、川遊びに行きました。

また、遠足行事ですが、こちらも小学生が多摩動物園に行き、今月には御岳山にも行く予定です。

森主査

それでは、続きまして貫井南児童館の現在の状況の説明をさせていただきます。

私ごとですが、緑児童館に16年もいたものですから、どうしてもそこの比較が入ってしまうのですが、緑児童館の場合は、子育てひろば事業が午後3時まであり、その後すぐ小学生が遊びに来るので、基本的には子どもの声といいますか、人の流れが1日中あります。

貫井南児童館に関しては、子育てひろば事業が週に3回で、時間も午後1時半までとなっており、小学生は前原小学校と小金井第四小学校の子どもたちが99%で、いずれも学区から少し離れたところに児童館があるので、下校時間から来館時間までが他の館よりも間が空きます。そのため、曜日によっては誰もいない時間が1時間とか1時間半ぐらい続くことがあり、少し静かな時間が他の館よりも長いと思います。さらに、小金井第四小学校でも前原小学校でも、最近は活発に放課後子ども教室が行われているので、学校や家から離れたところにある児童館に一度帰宅してから行くよりも、そのまま遊ぶ子は多いと思います。そのため、小学校の近くにある緑児童館よりも低学年の子どもたちの利用が非常に少ないです。3年生以上が多いといいますか、傾向としては5、6年生が本当に多いです。

実際、二つの小学校の放課後子ども教室には、児童館では見かけない低学年の子どもたちが非常に多いと放課後子ども教室と児童館共通のボランティアの方たちが言っています。遊び場、居場所ということでは、先ほどの緑児童館とは違った意味でのすみ分けができているようです。

それから、中学生ですが、南中学校の子どもたちがほとんどですが、日常的な利用者は、去年からずっと多かったです。今年度に関しても、やはり中学生の利用は結構多くありまして、3年生も時々来ますが、1、2年生の男子が圧倒的に多いです。1人とか2人ではなく、友達同士で誘い合って来る子どもたちが多く、部活の合間を縫うなどしているようです。

それと、館庭がすごく広くて、バスケット等の遊びが4館の中で一番広くできるので、中学生は外、小学生は中で遊ぶ子が多く、密を避ける等に関しては気にせず行えていると思います。

本町児童館はじめ、ほかの3館は小学生がとても多いので、中学生が入ると、交通整理に困るのですが、貫井南児童館は小学生がやや少なめで、中学生、高校生が多いので、今のところうまくやれています。

事業については、内容にもよりますが、申込みを必要とするものは、その申込み

開始日に結構殺到する状況で、そういったときには低学年もいたり、ふだん来ない子たちもいたりするので、イベントに関しては、保護者が常にアンテナを張っていらっしゃるのだなと感じます。

貫井南児童館に関しては公民館との併設なので、学童保育所と一緒にいるほかの3館とは違い、落ち着いた雰囲気があるからなのか、それほど館内を走り回ったり、大声をあげて騒いだりする子どもが少ないことに、少しびっくりしています。緑児童館は、どちらかというところ、子どもたちがはしゃいで走り回っているイメージが強かったので、貫井南児童館に来る子どもたちがおとなしく感じてしまいます。

山田主任

続いて緑児童館の今年度の様子について、お伝えします。

まず、乳幼児と保護者については、常設子育てひろばを月曜日から土曜日まで実施してまして、午前中を中心に多くの利用があります。

行事としては、離乳食やベビーマッサージなど、地域の方に協力していただき、子育て講習会として、コロナ禍の中で定員をある程度設けて実施をしています。定員を設けているので、ひろばとは別の部屋で講座を実施する形で今は行っています。

幼児グループについては、とても申込みが少なかったため、週2回と計画では書いてありますが、今年度は週1回で、8組しか利用がない状況です。

ひろばの全体的な人数は多いのですが、やはり0歳児が多く、1、2歳になると減ってしまう状況が多いので、そういった子が来られるような行事を、これから心がけていきたいと思っています。

小学生は、先ほど森主査からもありましたが、とても元気に遊ぶ自由来館のお子さんが、多く来ています。また、緑小学校からとても近いので、早い時間から遊びに来て、ずっと遊んでいるような状況です。

小学生のグループ活動がありますが、とても申込みが多かったため、現在、隔週で、AグループとBグループで交互に行っていて、子どもたちの意見を取り入れながら、内容を考えて実施をしています。

あと、ほかの館からもありましたが、夏期クラブとして、今年は工作の行事を行いました。もう2年も間が空いてしまったので、前に来てくれていた中学生や高校生も、今は高校生、大学生になった子が多く、その子たちに一人一人声をかけて、集まってもらい、ボランティアとして活動してもらいました。久しぶりに行ったので、ボランティアもなかなか集まらなかったのですが、少しずつ、従前の規模に近づけたいと思っています。

あとは中・高校生です。今、午後3時までは活動室で子育てひろばを行っていますが、その午後3時以降、土曜日ですと午後以降、活動室を中・高校生の居場所に使っています。夏休みは頻りに利用がありましたが、土曜日以外は、利用が少ない状況です。ただ、土曜日などに中学生が来てくれると、小学生と一緒にドッジボールなどをして遊んでくれるので、これからもそういった居場所兼ボランティアを育成する場として、PRしていこうと思っています。

あとは遠足についても、まだそれほど行っていませんが、ボランティアの高校生がサイクリングや電車の遠足などに参加してくれました。そのような事業にも少し

ずつ、中学生、高校生のボランティアが参加してくれているので、行事もこれからも増やしていきたいと思っています。

倉持会長

ありがとうございました。

それでは、少しボリュームはありましたが、昨年度分の事業報告と今年度分の取組について、令和2年度分とも比較しながら、コロナ感染などの対応も含めて、事業がどのように展開されているか御説明をいただきました。

それでは、何か御質問や御意見ありましたら、委員の皆さんから伺いたと思います。いかがでしょうか。

では、山中委員、お願いします。

山中委員

中学生がコロナ禍の中で、一昨年、部活が中止になり、居場所ということでは、児童館が果たす役割は大きかったと思うのですが、次第に学校の活動が再開されていく中で、今、話を聞いていると、常連とか特定の子ということが多く聞こえてきましたが、どうすれば常連とか特定以外の子たちが中学生の友達を誘って来られるのか、活動を広げていくような対策や広がらない課題についてどう考えていらっしゃるかお聞きしたいと思います。それを踏まえて中学校でも考えていければと思っていますが、いかがでしょうか。

倉持会長

なかなか大きなといいますか、簡単には答えづらい御質問かもしれませんが、現時点で何か御検討されていることや試行されていることがあればいかがでしょうか。

森主査

非常に難しい質問です。

児童館は学校などと違って、来る、来ないは子どもたちの選択になります。児童館がどういう場所であるかは、恐らく来る子どもたち一人一人、多少違うと思います。小学校のときに来ていたから来る子もいますし、それこそ、誰かに誘われて来るとか、あと、たまたまボランティアやったら、手伝ったことが面白くて、そのまま児童館に毎日のように来るようになった子どもたちも多いと思います。

児童館として中・高校生、特に中学生対象の行事等については、学校にも便りを配らせていただいていますし、子どもたちを集めようという試みは、すでに何十年もの間繰り返してはいるのですが、現状としては、チラシを見て来るとか、行事が面白そうだから参加することはほとんどない状況です。やはり大人に本当に近づいている世代なので、我々職員との関係をずっと持ちたくて来る子たちとか、あと、やはり仲間ですね。どうしても仲間と来るという子たち、あるいは逆に本当に行き場がなくて、不登校の子が児童館ですずっと活動して、大人になるまでずっといるといったこともありました。小学生と保護者とは違って、イベント目当てで来る子はほとんどなく、居場所として居心地がよかったからとか、ここで友達ができた等の理由で来る、あるいは、そのまま利用し続けることが多いので、そういった意味では、単純に増やすことが難しい状況はあります。そのため、取組としては、常に広報とか、子どもたちが行っていることについて、アンテナは張っているつもりですけども、状況としては難しいです。

結果として、我々のいる児童館に、必要として来る子たちがいることは重要なのかなとは考えています。

山中委員

ありがとうございました。中学校としても、地域との連携とか、身近な施設との

連携は、とても大事だと思っていますので、子どもたちがより活動しやすいような、行きやすいような形で、中学校の場合は考えていければと思っていますので、よろしく願いいたします。

倉持会長

必要な子に届く情報と、アクセスが届くようになることは、確かに連携が大事ななと思います。

小林委員、どうぞ。

小林委員

山中先生のお話が続けてになるのですが、児童館に行く子と、それから私、緑中で放課後カフェを行っていたので、放課後カフェに行く子というのは、また少し違って、実は放課後カフェに来ない子たちに聞いたら、いや、僕は緑児童館に行っていた。で、森さんにつながっているといったようなことを言うわけですね。やはり中学生になって、自分たちでどこかに行こうとなったときに、イベントでつられる子って、あまりいなくて、結局、顔がつながっている大人のところとか、居心地がいいところが、長年かけて関係性をつくっていき、それが先輩から後輩へといった流れになっていかないと、なかなか居場所ができないのかなという気はしていて、顔をつなげる努力を、児童館だけをお願いするのではなくて、僕もおやじの会などの活動を行っていますが、地元の中学生とか高学年の子、それから高校生と顔をつなげる努力を僕ら大人がしなきゃいけないことがある一方、やっていることがばらばらなんです。

そういった点で、例えば、えにえになど居場所づくりに取り組んでいる人たちがいっぱいいるので、そういった人たちの、いわゆる地域のハブといいますか、司令塔といいますか、専門家の立場から僕らにアドバイスをいただいたりとか支援をいただいたりする存在に児童館がなってくれるといいなと。今の活動だけで目いっぱいだと思うのですが、将来的には、そういったところになってほしいなという期待があります。

とにかく森さんたち児童館の皆さんが取り組んでいる飲食とか野外での事業のやり方は、すごく参考になる話ですし、今後、コロナ禍の中で、どうやってイベントを行っていけばいいのかという点に関しては、児童館の判断は、これであれば我々もまねしたほうがいいのではないかとということもあるので、そういったノウハウとか判断のやり方も、ぜひ広めていただいたら、もっと子どもたちのためにやろうと考えている人たちがまだいますので、そのような人たちのサポート、バックアップといいますか、後ろ盾のようになってくれるとすごくいいなと思いました。

多分、学校の部活も居場所ですし、部活は嫌だけど、放課後カフェがいいなと思う人もいるだろうし、いや、もう学校は嫌だから児童館に行こう。いや、ここはもう少し別のところに行こうと思う子もいると思うので、いろいろな選択肢を用意できたら、子どもたちの居場所ができるのかなという気もしました。

倉持会長

どうもありがとうございました。何かコメントありますか。

大澤部長

今、中学生等が話題になっていますが、市の基本計画の中に、やはり中・高校生のニーズを含めた多様な居場所の整備が必要であるという課題が挙げられています。特に中・高校生に関しては、世代特有のニーズを捉えた居場所づくりについて検討していくことが市の方向性として定められています。

一度、中学生におきましては、この期間ではありませんが、自分たちの居場所についてアンケートを取ったことが何回かあるかと思っています。今日、手元に資料があるわけではないのですが、回答としてほっとできるような場所や自習室などの場所が欲しいといった意見も出ています。

そういった状況の中で、この審議会ではありませんが、今、子どもの居場所部会で、全てが公でできるわけではないので、民間の力も借りて行っていこうという考え方があり、それと併せて中間支援、またはネットワークづくりも行っていかなければいけないということも検討しているところです。

いずれにしても、児童館も含めて、広い意味での子どもの居場所についてはなかなか課題が大きくて、どこから手をつければいいのかという問題もありますし、学童に関しては、大規模化の課題も抱えています。学校においては、35人学級であったり、来年の4月からこども基本法が成立し、子どもの意見も承って事業をしていかなければいけなくなったり、様々な課題がなる中で、一步一步ですけれども、皆様方の御意見も踏まえて、考えていかなければと思っています。

また、国においては、こども家庭庁ができ、既に東京都においても国の家庭庁のような子ども施策を中心に進めていくセクションもできている状況もありますので、そういった動向も踏まえて、この審議会の中では児童館に特化する形にはなるかもしれませんが、幅広い意味で、御意見を踏まえて整理をしていく必要があると思っています。

いずれにしても、我々行政だけではなくて、皆様方のお力も借りていかなければいけない。

ただ、お金の問題であったり、人の問題であったり、場所の問題、どうしてもそれはついてくるところがあることから、限られた資源を有効的に活用していきたいと思っておりますので、引き続き市として大きな課題であるということでも承らせていただきたいと思います。

倉持会長

どうもありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。小柳委員、どうぞ。

小柳委員

子どもたち、小学生が児童館にたくさんお世話になっていると思うのですが、自然な形で異年齢交流ができたり、児童館に行かないとできない幅広い体験を身につけたりすることは、とてもいいことだなと思っています。

やはり子ども関係の事業ですので、学校や児童館などがいろいろ連携していきるといいなと思っているところですが、参考のために2つ質問させてください。

1つは、コロナ対策のことについて、この秋に運動会を実施した小学校が結構多いのですが、この間の校長会で話題になったのが、昨年度とのアンケートの中身の違い。昨年度はやってくださってありがとうという意見がとても多かったとのこと。私、小金井に来て1年目なので、昨年度のことはよく分からないのですが、校長会で話題が出たのは、昨年度は簡素化した内容だったけれども、やってくださってありがとうという内容がほとんどだった。今年度は、全部ではないですが、いまだにここまで縮小してやらなきゃいけないのか、何で元の運動会に戻さないのかという意見が想定以上に多かったというのが校長会の方々の御意見でした。

前年度まで八王子で勤めていたのですが、やはりそのときのアンケートと比べても、もっと元どおりやれとか、もっと保護者をたくさん入れてもいいだろうといった声があったので、もうそんなふうになってきたのかという思いがあるのですが、児童館では、そういった保護者の声は、どのように聞こえてきているのか、参考になればと思っています。

2点目は相談事業に関心を持ったのですが、一年のあゆみ、40ページに大人からの相談も4件あって、中学生からの相談も6件あって、どんな相談が寄せられているのか、学校としても関心があるので、お話しただけるとありがたいです。

森主査

保護者からの御意見は当然あるのですが、極論言うと、それほど厳しい御意見はあまりなく、どちらかという児童館で行っていることが、あまり好ましくないと思えば、自然と来なくなることが多いと思われます。

例えば、年間通して小学生のグループ活動を行っていますが、令和2年度は子どもたちの感染が広がったこともあって、児童館で子どもがたくさん遊んでいることを気にして、しばらく休みますと連絡してきた保護者が多かったと思います。ただ、これはやめてほしいとか、これはおかしいのではないかと、あと逆に、もっとやってくださいといった強い要望は、あまり言われた記憶はなく、実施することについて、ああ、これもできるのですね、よかったですねという、比較的ソフトで好意的な意見のほうが今は多いです。

ただ、1つ厳しい意見をいただいたのは、おとし、児童館の開館を再開し始めて、試行錯誤しているときに、おやつを持ち込みを最初は許可していました。ただし、友達同士で交換してはいけないとか、大きなお皿に広げたりせず、自分で食べるだけにしていたのですが、それに関しては、やはりまずいのではないかとといった保護者の方の意見、特に放課後子ども教室の運営に携わっている保護者や地域の方たちが、あの当時、活動ができていなかったこともあって、私たちが活動できないのに、児童館ではそこまでできるのかといった感じで言われました。

結局、これについては検討し、やめて現在に至るのですが、そのくらいで、どんどんやってくれとも、これなら大丈夫ともあまり言われたこともなく、恐らく危ないと思えば来ないし、行かせて大丈夫だと思えば行かせている状況です。

それから、相談事業ですけれども、中身は個人情報があるので難しいですが、基本的に相談事業の数値として記録しているのは、子ども家庭支援センターや保護者などと連携を必要とするものをここで挙げています。特に中学生、高校生ですが、日常的にざっくばらんな会話や文句、少し言いつらいですが、学校の先生や友達、あと親に対する不平不満の場合は件数として載せていません。子どもからの相談について、虐待を感じさせるものについては正直ゼロではありませんでした。この場ではそういったケースもあるということで、とどめさせていただきます。

子どもからの相談の多くは学校とか友達関係でのこと、あと、高校生だと受験などの悩みもあります。進路についてはどの学校に行こうか、将来何をしたいか分からないといったようなことですが、内容に係わらず真面目に相談乗らなければいけないと思っています。

小柳委員

ありがとうございます。不登校や長期休業明けの自殺などは、今とてもナーバス

になっていると思うので、何かあったら連携が取れるといいなと思いました。

倉持会長
木本委員

そのほか、いかがでしょうか。木本委員、どうぞ。

何点かあるのですが、先ほど小林委員がおっしゃっていたように、地域の活動をしている人と児童館がつながって、子どもの居場所を子どもに伝えていくような事業があると、もっと子どもの選択肢が増えるかなと思います。本町児童館の一年のあゆみのところでも、地域の遊び場の選択肢が増えることが重要と書いてあったと思うのですが、その起点になる事業といいますか、形を児童館に取っていただけたら、とてもよいのではと感じました。これは意見です。

あと、わんぱく団も、今年度は小規模ながら進めていただいたので、保護者の立場としても、とてもありがたかったです。子どもは何年か間が空いてしまったら、わんぱく団、とても好きだったけど、もう申込みしなくていいやという気持ちになってしまっていたのが、すごく私にとっては残念だったのですが、児童館の事業として再開していただいたことは、ありがたいなと思いました。

わんぱく団についてですが、今年度はコロナ禍のため、小規模になったと思うのですが、今後については、今までのような規模に戻していくことがあるのかどうか。

あと、のびゆくこどもプランのところ令和6年度までは維持と書いてあったと思うのですが、維持というのは現在ではなくて、今までのわんぱく団としての維持ということでもいいかどうかを、1点、確認させていただきたいと思います。

また、先ほど森さんからお話があったように、子どもにとって飲食はすごく興味深く楽しいイベントだと思っていて、少しずつ中・高校生の軽食から始めていただいているということを知って、進んでいるなという気持ちはありました。

ただ、このコロナ禍が、来年に安心になるのか、再来年になったら安心なのかといったらそうではなくて、ずっと続いていくものだと私は思っているのですが、どの時点で、飲食をもっと進めていくのかとか、どのような状況であれば始めるのか、どのような形で進めていくのかといった検討は、もう既になさっているのかどうか、それもお伺いしたいと思います。

最後は意見ですが、中・高校生のボランティア、市民との協働については、本当に児童館ならではの協働であると思うので、ぜひ、これからも進めていただけたらなと思います。

森主査

事業とコロナとの関係ですけれども、コロナがどうなるかは、多分、誰も分からないと思うので、基本的に我々は、今まで行ってきたこと、あるいは必要な感染対策を常に考えながら行っていくしかないと考えています。よって、日常を戻すということよりも、やりたいことについてはその都度できるか考え、必要な対策を取りながら行っていくしかありません。

わんぱく団については40年以上続いている事業なので、今後も続けていきたいと思っていますが、コロナだけではなく、天候の問題などもあります。私ももう35年はやっていますが、この8月末の暑さが昔とは違ってきています。そのため、今、同じようなことをやろうとしても、子どもたちの健康については、前とは少し考え方も変わってきているのも事実ですし、いろいろ検討しなければいけないのはコロナだけではないので、一概に来年これだけ行うとは言えないのですが、必要な

ことは行っていきたいと思っています。

それから、ほかのこともそうですが、基本的に私たちは公共事業を行っております。それは学校等も全部同じですが、これを行えば大丈夫という確証はないので、その中で皆さん苦勞されていると思います。国や東京都からの行動制限が出れば、当然それには従っていきますし、出ていなくても感染者数が増えれば、感染対策は強めていかなければならないので、どの時点で何ができるかについて、職員の総意や個人の思いよりも、国や都の要請や指針等も含めて考えるべきだと思います。

これだけ実施したいけど、やっぱり今は行うべきではないということだとどまったものも多いですし、林間学校の再開をきっかけにわんぱく団の宿泊も行いました。もちろんそれだけではないのですが、学校が実施したからいいやといった簡単な気持ちではなく、学校がそういった対策を取れるのであれば、我々も考えなきゃいけないという考え方です。

感染者数が減ったり、行動制限が緩和されたりすればできることや考える選択肢も増えていきます。現在は屋外なら活動の幅も増やせるということで、公共交通機関を利用しての遠足事業は今年度になって再開させました。今後は屋外での飲食は様子を見ながら行う予定です。

繰り返しになりますが、児童館だけ先行させるとか、他が行っているから実施するとかではなく、あくまで子どもの施設としてやるべきことを、周囲の状況も確認しながら客観的に判断していくことです。

倉持会長

ありがとうございました。

三浦委員、どうぞ。

三浦委員

先ほどの質問に関連してですが、今年のわんぱく団と夏期クラブにおいては、お昼の食事が提供されていました。それに対して児童館での料理教室ができないのは、どういった理由なのでしょう。

森主査

現在、食に関しては、食べるだけでなく、作ることが大前提であるということが児童館の趣旨としてはあります。それは小さなおやつ作りから、宿泊のときの食事作りまで同じですが、食材を用いることで、自分の使うものを、そのまま自分だけが食べるのではなくて、いろいろな食材を、いろいろな人たちが共有することが、難しいということに尽きると思います。

そこについても、今、学童保育所では、おやつは生活の一部に入っているの、食べることに加えて、最小限の手作りはしていると聞いています。

小学校や中学校の家庭科授業では調理実習も行っているようですけども、ただ、そこは授業なので、当然行っていかなければいけないことは私たちも理解していますし、どちらかといえば、私たちが行っていることは、遊びの中で、いかにそれが子どもたちのいろいろな力につながっていくかなので、どうしても危ないとか難しいことについては、後回しになってしまうため、現状としては、まだ実施できていない状況です。

倉持会長

ありがとうございます。

じゃあ、ぜひ、大久保委員もどうぞ。

大久保委員

私は放課後子ども教室事業と、子ども会に関わっているのですが、やはり同じよ

うな分野で活動させていただいているに当たって、公共事業といいますか、経験をいろいろ持っていらっしゃる児童館の方のお話は、すごく勉強になると思っています。なので、対応の判断に当たって、いろいろな側面を見ながら、何を行うにしても都度判断されていることが、すごくよく分かりまして、そういった部分をぜひ共有させていただいて、子どもたちにとって安全な活動を私たちも行っていけたらと思います。

倉持会長

ありがとうございます。

皆さん、御質問、御意見ありがとうございました。この3年間ぐらいで変化のプロセスといいますか、事業対応のプロセスが見えたのが非常に興味深かったなと思いました。

事業そのものは工夫されながら、実際には、食べるとか、調理するとか、一部宿泊もありましたが、宿泊以外は事業としては継続していく、実現していく方向でできてきているということで、このような状況の中でも、どのようにできるかという工夫がなされているなと思いました。

ただ、今おっしゃったように、食べるとか調理するとか泊まるなど、完全に回復するのは難しいかもしれないので、それをどう実現していくかとか、あるいはそれに代わる事業をどのようにしていくかということも、これから考えていかなければいけないかなと思います。

昨日たまたま区部の児童館の職員と話しをする機会があったのですが、自治体によって大分判断が違うので、今日、小金井の取組を伺って、大分解禁されているなと私は感じました。感染対策をしっかりしながら、事業そのものをしっかりと実現する、実施する形に持っていき、取組が積極的になされていると思いました。

一方で、事業を実施しても、定員は少なくしたり、事業の形態が変わってしまったりということは、どうしようもないことですし、伺っていると、ニーズが高まっているところの利用が控えられているというのが少し見えてきつつあるので、コロナ前のようにはいかないところ、これからどうやって、いろいろな子ども、あるいは大人たちの居場所になっていくのかということも、このアフターコロナやウィズコロナの時代にどう作っていくかということは、まだまだ工夫も必要だなと思いました。

あと、やはり今年度になって、ボランティアとか、子どもたちに関わる地域の人や中・高校生たちが参画できるようになってきたことのは、すごく前向きな要素だなと思いました。なかなか子どもたち自体の居場所をつくるのも大変だったのですが、そこに参画する人たちとどうつないでいくかが、難しい状況になっていく中で、異なる層の人たちが交わることに対する警戒感がすごくあるので、大学生のボランティアや、地域の人たちを取り入れていくことが実現していくことはすばらしいなと思う一方で、さきほどどこかの館で、2年開いてしまった中で、ボランティアを改めて集めるのが大変で、つながりが薄くなってしまったところをどう継続していくかが難しいといったコメントもいただいたので、この先に向けてネットワーク機能のようなことが児童館には求められていると思いますから、その部分も、これから新しいテーマなのかなと思いました。

大変詳しく御説明いただいたこともあって、委員の皆さん、それぞれのお立場の御意見、参考になるものがあったと思いますので、引き続き、事業を展開いただければと思います。

それでは、もう一件、御報告があって、のびゆくこどもプランの資料も入っていますので、こちらの御説明をいただければと思います。

鈴木係長

お配りしている資料10、「のびゆくこどもプラン 小金井」の事業進捗状況評価について御説明をさせていただきます。

まず、のびゆくこどもプランは、市の子育ち・子育て支援の総合的な施策を推進していくため、その方向性を定めた市の計画となっております。

この計画において、取り組んでいくべき子育て施策が定められており、1年に1回、それぞれの施策が計画どおり進んでいるかどうかの検証を、市民を含めた子ども・子育て会議という会議体での意見をいただきながら実施しているところです。

こちらの審議会に、この資料をお示しするのは初めてかと思いますが、児童館で実施している事業についても、この計画上、定められておりまして、事業の実施状況ですとか振り返り等の確認ができる内容となっております。

資料10について、見えにくくて恐縮ですが、一番左側の欄にグレーの印がついている項目が児童館に関係する項目となっております。

こういった上位計画に基づいて、各児童館の事業も実施されていることを委員の皆様にも知っていただき、今後の在り方検討の資料にも活用ができるかなと事務局では考えているところです。

資料を御覧いただきまして、内容について御質問や御意見がありましたら、委員の皆様からお受けしたいと思います。

倉持会長

ありがとうございました。字が小さいので、読み込むには少し大変な資料かもしれませんが、左側のマーキングのところを見ていただくと、児童館に関連する事業についての内容、指標、実績、評価が表れているかと思います。

いくつか予定どおりにいかなかったところに丸がついているものもありますので、気になるところもあるのではないかと思いますけれども、全体の子ども・子育てに関する計画、児童館事業はどの辺に位置づいているかといった点も含めて、もし御質問や御意見などありましたら、いただければと思います。

これは目標値のようなものはあるのでしょうか。

大澤部長

こちらについては、子どもに関係する施策が約100項目掲載されているうちの児童館の事業を抜粋したものになります。それぞれ大きく3つの方針があり、それに基づいて施策を行っております。

一番分かりやすいのは、1ページ目の児童館事業を見ていただくと、事業の内容の記載があり、これに関する参考指標として、1つは来館者数、それと開館延長のときの利用者数を設定し、その実績として、平成30年度の数値を載せさせていただいております。

それ以降、令和6年度までの計画ということで、どちらも漸増という言葉になっていますけれども、これは平成30年度の実績値から少しずつ増やしていこうという考え方で計画をしています。

その下にR2、R3と数字が入っていますが、実績が出ている年度に関しては実績の数字を入れております。

これに関して、令和3年度にどのような取組をしたかを担当部局として記載をさせていただき、別に子ども・子育て会議の委員の方から何か意見があれば、ここに追加で記載をしているものが資料10の最初のところです。

子ども・子育て会議の中では、今まで100の事業を1つずつ点検していく作業を行っていたのですが、児童館でいえば、この児童館運営審議会もありますので、細かいものはそちらで検討していこうということで、市の100ぐらいある施策の中で特化した20項目について、重点項目として定めさせていただき、それに関して議論をしてきたものです。

2ページ以降については、重点事業ではないですが、子ども・子育て会議の中で意見があればということで、参考指標に対して、予定どおりにいったかいなかったかを担当課のほうで判断をさせていただいて、印をしています。それに関して附帯の意見があれば、担当課で意見を記載している内容になっているということを補足させていただきます。

倉持会長

先ほどの私の質問に対しては、実績に対して少し増えていけば、それなりに進んでいるという、そういった評価の仕方がされていることでよろしいでしょうか。

大澤部長

そのとおりです。例えば、児童館の関係ですと、参加者であれば少しずつ増やしていきたいというように、それぞれの項目としては設けています。

ただ、内容によっては、数が増えたからいいという問題でもないものもあると思っています。例えば、相談の件数については、件数が増えていけばいいのかということなど、最終的な評価の仕方については難しい部分もありますので、一応項目は挙げますけれども、それに関する参考指標として、各項目載せてあります。

ただ、全体的にどうかということにつきましては、これとは別に、市の総合的な子育て環境に関する支援に関して、満足をしているか、していないかということアンケートを取って、5年間で全体的に評価をしていくといった手法に変えさせていただいているという状況があります。

人数が客観的に分かるものに関しては漸増していく。ただ、必ずしも増えたからいいものでもないことから、少しずつ事業も変化させながら、進めていきたいという趣旨のものであると御理解いただけたらと思います。

倉持会長

こういった計画と評価は、今、御説明にあったように、定性的に評価するか、定量的に評価するか、それをどのように総合的に評価するか、特にこういった質の事業というのは難しいので、うのみにしてはいけませんが、一つの現状を知る材料、経緯を知る材料にはなっているということで、計画との関わり、児童館事業と市全体の子どもプランとの関わりも含めて、理解するにはいい資料かなと思いました。

いかがでしょうか。何か御質問ありますでしょうか。木本委員、どうぞ。

木本委員

4ページの番号1番、児童館における意見箱の設置という項目がありますけれども、こちらに関しては、子どもがどれだけ意見箱に意見を入れたかの実績ということで、その意見がどう反映されたとか、実際に実現されたかではないという理解でよろしいでしょうか。

- 大澤部長 数がどれだけあったかを示しているものです。
実際、意見箱に出されたものを、どのようなところで取扱っているかは、担当の児童館から説明いたします。
- 木本委員 すいません。追加で質問してよろしいですか。
もし、子どもの意見で反映されて、児童館の事業になったようなものがあれば、お伺いしたいなと思います。
- 森主査 意見箱は、4館ともに、子どもの見えるところに設置して、簡単に書いて、入れられるようにしています。
数値については、今、資料を持ち合わせていないので、どのような意見があるかの報告になります。
基本的には、小学生が多いので、これが欲しいとか、児童館にこんな遊び道具があったらいいとか、そういった意見が多いと思います。実現できるものは、それを購入することもあるのですが、遊園地が欲しいといったような壮大な意見もありますので、そういったものは難しいですよといった、返答は貼るようにはしています。子どもの意見があって、その下に赤字で、こちらからそれに対して返信するようにはしています。こういった行事を行ってほしいなどの意見は、現実としてはそれほど多くはなく、小学生の率直な子どもならではの意見が多い印象です。
- 木本委員 東児童館でも玄関先に張り出されていて、誰々と遊びたいとか、あ、かわいいなというものもあるのですが、たまには事業にできるぞというものがあるのかなと思って質問させていただいたのですが、小学生なりということですね。
- 森主査 大事なのは、こちらが真面目にそれ捉えるといいますか、子どもの意見だからということではなくて、しっかりとどんなことに関しても応えたいと思っています。
- 木本委員 返答してくださっていることは、子どもにとっては、見ているか分からないのですが、いいなと感じました。ありがとうございます。
- 倉持会長 ありがとうございます。
そのほかいかがでしょうか。
それでは、議題の1、児童館事業についてはよろしいでしょうか。御意見、どうもありがとうございました。
- 鈴木係長 それでは、議題の2、その他ですけれども、事務局から何かございますか。
事務局から2点ほど御報告をさせていただきたいと思います。
まず1点目ですけれども、東児童館のプロポーザルによる事業者選定の実施状況について御報告をさせていただければと思います。
東児童館の運営につきましては委託により行っているところですが、5年に1回、事業者の再選定を行っておりまして、今年度、その選定作業を実施している年度となっております。来年度4月から、最大5年間、運営を担っていただく事業者の選定について、公募型プロポーザル方式という選定方法により進めさせていただいているところです。
先月、10月5日に参加希望申請を締め切りまして、10月17日に現地見学会を開催いたしました。現在は参加希望のあった事業者様からの企画提案書の提出を、11月25日までをお願いしている状況となっております。

今後の流れとしましては、12月12日に1次審査として書類審査、12月23日に2次審査としてプレゼンテーション審査を行い、契約候補者を決定し、来年1月中旬に審査結果を公表する予定で進めております。

審査前の状況ですので、応募事業者の数等をお知らせすることは現時点でできませんが、審査結果が御報告できる段階になりましたら、委員の皆様にもお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2点目です。冒頭に御説明させていただきました今後の在り方検討の進め方についてです。

今回の審議会に向けまして、今後の児童館の在り方について本格的な検討を次期任期で行うに当たっての御要望や課題等について、本日の審議会の内容等を踏まえながら、どこかで委員の皆様から御意見をいただきたいと事務局として考えております。

こういった形で皆様から御意見を集めるか等、今、検討させていただいているところですので、詳細等が決まりましたら、追って御連絡させていただければと思いますので、その際は、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上になります。

倉持会長

ありがとうございました。

今回の日程はいつぐらいになりそうですか。

鈴木係長

今のところ来年の2月頃予定しておりますので、こちらも日程が決まり次第、御連絡させていただきます。

今回は来年度の事業計画等についても御審議いただく予定とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

3 閉会

倉持会長

ありがとうございました。

委員の皆様から、その他何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、今回はまた2月ということで、間が開きますけれども、今、事務局から御説明のあったような内容になるかと思っておりますので、また御参加のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回小金井市児童館運営審議会を閉会いたしたいと思っております。皆さん、どうもありがとうございました。